

基礎分野

哲 学

文章構成法

情報科学

社 会 学

心 理 学

教 育 学

人間工学

文化人類学

人間関係論

英 語 I ・ II

代替補完療法

ボランティア論

教 科 目 名	哲 学	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	本講義では、脳死、臓器移植、安楽死及び尊厳死等、現代の医療現場で生じうる、倫理的問題を含む諸状況について理解を深めることを目指すとともに、こうした倫理的問題についての考察の基礎にある「責任」という概念について、その基礎付けの可能性を探る。また、狭義の「倫理学」には属さない哲学的諸問題についても、いくつかのトピックをとりあげる予定である。これらの問題を通じて、学生諸君に、自ら思考する楽しさを味わってもらいたい。
授業の形式	講義
成績評価の方法	授業中のレポート及び小テスト
教科書・参考書	(教科書)
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	哲学Ⅰ 行為と責任	①行為と出来事 ②責任概念 ③意図と責任 人が、自らが為した事に対して責任を持つのはどのような場合かについて学ぶ。それを通じて「意図」や「自由」、「責任」といった概念について理解を深める。
2		
3		
4	医療論理 医療論理の諸問題	①パーソン論 ②SOL/QOL ③安楽死及び尊厳死 ④中絶問題 ⑤インフォームドコンセント ⑥予防医学 ⑦医療資源の配分問題 ⑧遺伝子操作 ⑨人口臓器 ⑩総論 「人間」について、生物学的観点と社会的観点の両方からの眺望を提示し、それを元に今日の医療現場における倫理的諸問題について論ずる。 左にあげた各項目について、その内容を適切に理解することを第一目標とし、最後に小テストを行う予定である。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	哲学Ⅱ コミュニケーション の哲学	①コミュニケーションとは何か ②言葉と意味 「他者の発言を理解できるのはなぜなのか？」という問いを中心に講義をすすめる。その際に「言語とは何か」、「規則と規範」といったトピックについて問題提示を行い、レポートを課す予定である。
15		

教 科 目 名	文章構成法 I	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次・前期

学習目標	<p>看護の実践において、医療者間で協議するときなど、コミュニケーションの手段として文章の作成が求められることがある。しかし、実際に伝えるべきことを的確に表現する文章を作成すること、あるいは文章の内容を正しく捉えこと、これらは必ずしも簡単ではない。「文章構成法 I」は論理的な思考を養い育てながら、基本となる適切な表現を学習する。この授業自体が参加者にとって文章を作成する実際の機会になるようにする。以下、1～3 が授業の目標となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章の作成に関して押さえておくべき事項を確認すること 2. 論理的な思考を実践すること 3. 上記の 1, 2 を踏まえ、文章を作成すること
授業の形式	<p>授業は①学習目標 1, 2 に関する部分と (主に講義形式)</p> <p>②目標 3 に関する実際に文章を作成する作業に分けられる。</p> <p>(全授業を通して、3～4 回文章を作成する)</p>
成績評価の方法	授業の時間の中で作成・提出する文章で評価。改めて試験等は実施しない
教科書・参考書	適宜、資料の配布 参考書は授業の中で指示する
メッセージ	文章を作成するために、予め準備する必要はありません。実際に文章を作成する機会を持つことを重視します。積極的に取り組むようお願いいたします。

回	授業主題	授 業 内 容
1	文章表現の基礎 1	日本語の表現で注意すべきことを確認する
2	文章の作成 1	
3	文章表現の基礎 2	日本語の表現で注意すべきことを確認する
4	文章の作成 2	
5	文章表現の基礎 3	文章をどのように組み立てるか？
6	文章の作成 3	
7	文章表現の基礎 4	まとめ
8	文章の作成 4	

教 科 目 名	文章構成法Ⅱ	単位数(時間数)	1単位(15時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2年次・前期

学習目標	<p>看護の実践において、医療者間で協議するときなど、コミュニケーションの手段として文章の作成が求められることがある。しかし、実際に伝えるべきことを的確に表現する文章を作成すること、あるいは文章の内容を正しく捉えこと、これらは必ずしも簡単ではない。「文章構成法Ⅱ」は「文章構成法Ⅰ」を踏まえ、論理的な思考を養い育てながら特に、論理的な文章の作成に取り組む。</p> <p>この授業自体が参加者にとって文章を作成する実際の機会になるようにする。以下、1と2が授業の目標となる。</p> <p>1. 文章の作成、特に文章の構成に関して押さえておくべき事項を確認すること</p> <p>2. 上記の1を踏まえ、文章を作成すること</p>
授業の形式	<p>授業は①学習目標1に関する部分と(主に講義形式)</p> <p>②目標2に関する実際に文章を作成する作業に分けられる。</p> <p>(全授業を通して、3～4回文章を作成する)</p>
成績評価の方法	授業の時間の中で作成・提出する文章で評価。改めて試験等は実施しない
教科書・参考書	適宜、資料の配布 参考書は授業の中で指示する
メッセージ	文章を作成するために予め準備する必要はありません。実際に文章を作成する機会を持つことを重視します。積極的に取り組むようお願いします。

回	授業主題	授 業 内 容
1	文章表現の基礎1	日本語の表現で注意すべきことを確認する
2	文章の作成1	
3	文章表現の基礎2	文章をどのように組み立てるか?
4	文章の作成2	
5	文章表現の基礎3	文章をどのように組み立てるか?
6	文章の作成3	
7	文章表現の基礎4	まとめ・補遺
8	文章の作成4	

教 科 目 名	情報科学 I	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：情報の概念及び情報の科学的処理の基本を理解し、コンピューターを利用した情報処理を学ぶ。</p> <p>目標：1.情報の概念を理解し、情報を科学的にとらえることができる。 2.情報処理の基本と処理の方法を理解する。 3.コンピューターの基礎知識を学び、基本的操作及び情報処理の実際を理解する。</p>
授業の形式	講義と演習形態とする。
成績評価の方法	課題提出と定期試験を総合して評価する。
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院
メッセージ	受講生の高校で取得したレベルを把握し、理解しやすい授業展開としたい。配布資料があるので定期試験まで整理して保管のこと。

回	授業主題	授 業 内 容
1	デジタル化入門	デジタル化の背景と現状
2	システム構成	ハードウェア (機器構成) とソフトウェア (各種プログラム) の理解
3	インターネットの起源	広域ネットワークとローカルネットワークについて インターネット技術
4	情報伝達について	情報発信と受信 (情報の選別能力) Web の基礎知識
5	デジタル加工について	画像, 映像の処理方法と原理
6	電子シートの活用	データのフォーマットについて (数値, 文字, 画像, 映像, etc.)
7	データ加工と表示	各種グラフおよび活用について
	学科試験	

教 科 目 名	情報科学Ⅱ	単位数（時間数）	1 単位（15 時間）
担 当 者	非常勤講師・専任教員	講義学年・学期	3 学次 後期

学習目標	<p>目的：情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を養う。 情報通信技術（ICT）に対する基本的な知識、看護実践に活用できる知識とその実際について学習する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報通信技術（ICT）の概要を理解する。 2. 情報通信技術(ICT)活用に必要な基本的な知識を理解する。 情報倫理（リテラシー）・情報セキュリティー 他 3. 情報通信技術(ICT)の活用の実際を学ぶ。 4. 医療看護における情報通信技術（ICT）の実際を学ぶ。
授業の形式	講義と演習形態（グループワーク）とする。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験によって評価を行う。
教科書・参考書	（教科書）系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院
メッセージ	<p>私たちの生活は情報通信技術が発展し便利になる反面、その背景には様々な危険が存在しています。今後社会でますますこの技術が発展していく中で、一社会人として、看護に携わる者として情報によって得られる利益と人権を守る基礎的知識を有する必要があります。この授業では、情報通信技術（ICT）の基本的知識、活用する上での利点や欠点、注意点等を学び、安全に利活用できる基礎を学びます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	情報通信技術 (ICT) の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT とは何か ・ ICT を取り巻く社会情勢について 	非常勤講師
2	情報通信技術(ICT) 活用のために必要 な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 活用のために必要な基礎的知識 ・ 安全管理と情報セキュリティー対策 ・ 医療従事者として知っておくべき情報セキュリティー ・ 	〃
3	ICT の活用術 富良野市の取り組 み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富良野市の ICT 活用の現状について ・ 富良野市のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進について <p style="text-align: center;">* 演習含む</p>	〃
4	情報リテラシー 健康と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報リテラシー対策について ・ 情報化社会の法務について ・ 情報通信技術を利用した健康づくり ・ 富良野市の健康づくりの実際 	〃
5	保健医療と情報 医療における情報 システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療における情報 ・ 医療情報の標準化と電子化 ・ 医療情報の利用と倫理 ・ 医療における情報システム 	専任教員
6	医療における情報 システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報システムの記録の仕方 ・ 地域医療福祉のネットワークと情報システム 	〃
7	個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療看護における個人情報 <p style="text-align: center;">* グループワーク含む</p>	〃
8 (0.5)	学科試験		

教 科 目 名	社 会 学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：今日起こっている具体的な社会問題事例をもとに、人間や社会について考察し、社会的なものの見方・考え方ができる力を養う。</p> <p>目標：1. 社会の構造および機能を理解する。 2. 現代社会の特徴と問題点を理解する。 3. 意見の交流を通して、多面的多角的に考える力を養う。 4. 技術発達による生活様式の変化、エネルギー問題や環境問題について理解する。 5. 技術が社会にもたらす影響について、自ら課題を設定し考察できる資質を身につける。</p> <p>内容：1. 赤ちゃんポストをもとに現代社会と生命について考察する。 2. 沖縄問題をもとに戦争と差別について考察する。 3. 貿易ゲームを通して外交・貿易の問題について考察する。 4. エネルギー問題や環境問題について技術論の視点から考察する。 5. 二つ折りポートフォリオの制作・発表を通じて技術の発達が社会にもたらす光と影について考察する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	レポート形式（記述式）の試験、制作課題（二つ折りポートフォリオ）
教科書・参考書	<p>(教科書) 指定しない</p> <p>(参考書) 指定しない</p>
メッセージ	<p>社会科を学ぶ意味として「社会的な見方・考え方を養うことは大切である」と文部科学省は示しながらも、これまで学校で受けてきた社会科（地歴科・公民科）の授業は「先生が一方的に講義して、それをノートに写して暗記して、それを試験して」というイメージが多いのではないのでしょうか。</p> <p>そこで、この授業では、まず今日起こっている（ニュースで取り上げられている）問題をもとにしました。そして、そこに隠されている構造的な問題を明らかにし、「なぜ、そのようなことが起こったのか。」「自分だったらこう思う。」「こうしたら良いのではないか。」と考え、それを交流していくことを大切にしたいと思います。真の社会的なものの見方・考え方を大切にしたい授業にしていきたいと思えます。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	社会の見方・考え方	社会学の導入として、社会を学ぶことの意義について考える。
2	北海道を見つめる	昆布を通して、北海道を地理的・歴史的に捉え、社会を構造的に見ることの大切さについて理解する。
3	生命と社会Ⅰ	赤ちゃんポストの問題について資料をもとに理解する。
4	生命と社会Ⅱ	『こうのとりのゆりかご』を視聴し、生命について考える。
5	外交問題Ⅰ	TPP 問題について考える。貿易ゲームをする。
6	外交問題Ⅱ	貿易ゲームの振り返りをする。外交問題について考える。
7	戦争と差別	今日の沖縄問題をもとに、戦争と差別の関係性について理解する。
8	技術の進歩と社会生活	技術の進歩がもたらした、生活の向上を考える。 技術の進歩が社会問題の解決に貢献した事例を知る。
9	電気技術と社会 技術と環境	「あかり」の進化を通じ、電気技術が社会にもたらした影響を知る。照明機器の特徴を知り、生活様式に合わせて使用法を考える。技術の発達が生社会にもたらした光と影について考える。 技術の発達による環境破壊について知る。 環境を守る技術について知る。 課題の説明：「二つ折ポートフォリオ」政策の目的と意義、制作方法を知る。自己のテーマを決定する。
10	エネルギー利用の変遷 と社会 原子力技術の光と影を 知る	原子力の功績 原子力事故（VTR） まとめ 社会は技術とどのように関わっていくべきかについて考える。
11	技術の発達が社会に もたらす光と影 （制作Ⅰ）	二つ折りポートフォリオの制作を通じ技術の発達が社会にもたらす光と影について知る。（情報収集、構想、制作）
12	技術の発達が社会に もたらす光と影 （制作Ⅱ）	二つ折りポートフォリオの制作を通じ技術の発達が社会にもたらす光と影について知る。（製作、相互交流）
13	課題発表	課題発表を通じて自己の考察を深めるとともに、交流を通じて技術と社会に関わる見識を広げる。 二つ折りポートフォリオをグループ内で発表する。 全体交流
14	技術の発達が社会にも たらす光と影(制作Ⅲ)	二つ折りポートフォリオの制作を通じ技術の発達が社会にもたらす光と影について知る。（完成）
15	伝統技術と社会	伝統技術が社会に果たす役割について考える。

教 科 目 名	心 理 学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：人間の知覚、感情、認知、行動、こころの発達を心理学的な立場から広く理解し、人間理解の基盤を形成する。</p> <p>目標：1.心理学の基本理論を理解する。 2.人間の行動とその既成条件との関係を学ぶ。 3.自己及び他者理解に役立てる。</p> <p>内容：1. 自分を知る 1) 動機づけ—人を動かすもの 2) 感情—喜怒哀楽 3) パーソナリティー—その人らしさ</p> <p>2. 「心」の成長 1) ライフサイクル—心の成長/変化/危機 2) カウンセリング</p> <p>3. 「関係」の中に生きる「人」 1) 人間関係の中の「自己」 2) 対人認知—人をどう見るか 3) 「人」と「集団・社会」 4) コミュニケーション—関係をつくる</p> <p>4. 心のしくみ 1) 感覚・知覚—外界をどのように知るか 2) 記憶—覚えること/忘れることのしくみ 3) 学習—経験を生かすこと 4) 思考・知能—考えることのしくみ</p>
授業の形式	授業中に説明します。
成績評価の方法	授業中に説明します。
教科書・参考書	(教科書) 看護学生のための心理学 第2版 医学書院
メッセージ	ただ話を聴いているだけでなくグループワーク等を多く取り入れることで、「自分なりに考えること」を大事にしたいと思っています。

回	授業主題	授業内容
1	心理学について	心や心理学とはどういうものかを考える
2	心のしくみ：感覚と知覚	感覚や知覚についていろいろな例を通して学ぶ
3	心のしくみ：記憶	記憶や学習に関する基礎的な考え方を学ぶ
4	学習	
5	自分を知る：動機づけ	感情に関する基本的な理論を学ぶ
6	感情	
7	自分を知る：パーソナリティ 1	心理学においての人格の考え方を学ぶ
8		
9	自分を知る：パーソナリティ 2	エゴグラムを理解し、自分でも試してみる
10		
11	心の成長：ライフサイクル	心の成長・変化・危機について学ぶ
12		
13	カウンセリング	カウンセリングの基本的な考え方を学ぶ
14		
15 (0.5)	まとめ	
	学科試験	

教 科 目 名	教 育 学	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：教育が人間や人間形成にとってなぜ必要なのかといった教育の意義、学ぶことの意味を理解し、教育問題や教育が抱える課題といった日本の教育の現状について考える。</p> <p>目標：1.人間形成に必要な教育の意義を理解する。 2.教育と文化、社会の関係を理解する。 3.教育的手法の基本を理解することにより看護と教育の関係を理解する。</p> <p>内容：1.教育とは何か 2.家庭の教育的機能 3.地域社会の教育 4.学校教育の歴史と現状 5.生涯教育と社会教育 6.学校における教育問題 7.教育評価 8.心身障害者の教育</p>
授業の形式	必要に応じて視聴覚教材を用いながら、講義形式で進めていきます。話し合い、発表の機会もできるだけ多くとりたいと思っています。
成績評価の方法	ペーパーテスト (50%)、レポート (30%)、小レポート (10%)、発表 (10%) の合計点で成績を評価します。
教科書・参考書	毎回プリント配布
メッセージ	<p>質疑応答を講義の中に多く取り入れたいと思っています。</p> <p>「疑問に思う、考える、尋ねる、人の意見を聞く (聴く)、自分の考えを持つ」そういったプロセスを大切にしながら「教育学」の中で人と関わることの意義を一緒に考えていきたいと思っています。</p>

回	授業主題	授業内容
1	教育の目的について	教育の目的を問われると「人間形成」が挙げられることが多い。「人間形成」とは何であるのか、多面的に考える。
2	人間の成長への環境の影響 (自然環境・文化環境)	人間の成長は、自己の活動とともに環境からの影響を不可欠の要因にしている。「環境体験」(環境について体験すること) および「環境作用」(環境が人間形成についてはたらくこと) について考える。
3	人間の成長への環境の影響 (人的環境)	
4	家庭教育 (家族という集団について)	社会的集団として「家族」の機能について考える。
5	家庭教育 (現状の家庭と教育の問題について)	日本の家族と社会化について伝統的な文化の問題と現代の社会状況に由来する問題の二面から考える。
6	子どもの社会力 (社会をつくっていく力について)	他人への愛着、関心、信頼が失われている子どもたちの生活の中において、各々の成長過程で必要な大人の働きかけについて考える。
7	学校教育の制度 (日本の学校制度について)	日本の学校制度が明治以降どのような変遷の中で現在の制度が確立されてきたのか考える。
8	学校教育の制度 (他国の学校制度について)	他国の学校制度について学ぶことにより、日本の教育について制度の側面から考える。
9	生涯教育と社会教育	現行の社会教育についてその内容に触れ、その意義について学ぶ。
10	学校教育の課題	「いじめ」「学級崩壊」「学力低下」など学校のかかえる問題について多面的に考える。
11	生徒指導 (「生徒を理解すること」について)	生徒を理解するために教育現場では、カウンセリング、観察、調査等、様々な方法がなされているが、その方法と問題点について考える。
12	教育評価 (意義と目的について)	教育活動の最後のプロセスである教育評価のもつ意義について自己評価の意義も含めて考える。
13	教育評価 (評価の方法について)	絶対評価、相対評価およびテストの作成の仕方について生徒の側からだけでなく、教師の側の立場から妥当な方法について考える。
14	心身障害者の教育 (制度・現状について)	現在、日本で実施されている心身障害者の教育について戦前、戦後、現在とその流れを学ぶ。問題点について考える。
15 (0.5)	心身障害者の教育 (他国の現状について)	先進国、発展途上国、異なるいくつかの国の心身障害者の教育の現状について学ぶ。
	学科試験	

教 科 目 名	人 間 工 学	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 後期

学習目標	<p>目的：人間工学が人間の生活のあらゆる場面に応用されていることを学び、その科学的根拠を理解する。</p> <p>目標：1. 人間の生活に人間工学がどのように活用されているか理解する。 2. 生体の構造と生理、人間工学の方法論を理解する。 3. 日常生活において具体的に人間工学の応用が理解できる。</p> <p>内容：1. 人間工学の概念 2. 障害のとらえ方と環境 ユニバーサルデザインなど 3. 身体運動とその仕組み 1 バイオメカニクス；生体工学的観点 4. 身体運動とその仕組み 2 キネシオロジー；運動学的観点 5. 姿勢と歩行 6. ADL・看護動作との関係</p>
授業の形式	講義 演習
成績評価の方法	試験
教科書・参考書	(教科書) 指定しない。
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	概論	人間工学とは
2	障害のとらえ方と環境	ユニバーサルデザインなど
3	身体運動とその仕組 1	バイオメカニクス：生体工学的観点
4	身体運動とその仕組 2	キネシオロジー：運動学的観点
5	姿勢と歩行	
6	ADL・看護動作との関係	
7	まとめ	
	学科試験	

教 科 目 名	文化人類学	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 後期

学習目標	<p>目的:生活体としての人間を文化の側面から理解し、異文化や他者を深く理解するための視点と方法を身につけることにより、異文化の多様な価値観とその背景を踏まえ、看護の対象への洞察力を高めると共に自己理解を深める。</p> <p>目標:1. 多様な文化における価値観の違いとその背景を理解する。 2. 人間の健康生活に文化が影響していること、看護を提供する上で対象者の病気観、健康観、身体観への理解が不可欠であることを理解する。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	講義終了後の試験と、随時行う小レポートによって評価します。 出席も成績評価の対象とします。
教科書・参考書	(教科書) プリントを配布します (参考書)「病と死と文化」池平恵美子著 朝日選書 「医療人類学のレッスン」池田光穂、奥野克己著 学陽書房
メッセージ	<p>講義の内容は次の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化の多様性 人間社会に見られる変化に富んだ諸習慣をとりあげ、文化の多様性、文化相対主義について学ぶ。 2. 文化と病気 健康と病気を社会や文化との関係でとらえ直し自分たちの社会がどのような病気観をもっているかを考える。 3. 生と死にまつわる習慣 生と死は人間に普遍的だが、その習慣は文化によって多様である。生と死の境界、誕生、葬送儀礼などについて学ぶ。 4. 性と生殖(リプロダクション) 多様な文化における性と生殖にまつわる習慣について学び、さらにリプロダクティブヘルス・ライツという考え方が出てきた背景を学ぶ。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	文化人類学とは	・文化人類学とは、フィールドワークについて
2	異文化理解の重要性	・文化人類学による「異文化研究」の視点
3	「文化」としての身体	・「障がい」について考える
4	文化と病気	・「いのち」について考える
5	生と死にまつわる習慣①	・病気、病人、患者について考える
6	生と死にまつわる習慣②	・日本社会における死生観 ・アマゾン、インド・ネパールの人々の死生観
7	性とリプロダクション	・文化によって異なる生殖理論 ・高度生殖補助医療について考える
	学科試験	

教 科 目 名	人間関係論	単位数(時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期 後期

学習目標	<p>目的：人間関係の大切さや有効なコミュニケーションの方法を学ぶ。 コミュニケーションの基礎理論やグループダイナミックスの学びをもとに、日常の人間関係を良好に保つためにパフォーマンス学（日常生活における演技性）を学ぶ。いろいろなパフォーマンスに接して「感性」を磨き、演習場面を通して非言語表現のコントロールについても学ぶ。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の大切さに気付くことができる。 2. 自分の人間関係の傾向に気づくことができる。 3. 対人援助に必要なコミュニケーションのあり方を学ぶことができる。 4. 円滑なコミュニケーションや人間関係作りのための言語表現、非言語表現について理解できる。 5. 場面、役割に応じて自らの振る舞いがコントロールできる。 6. 場面、役割に応じて自らの振る舞いをコントロールするための知識や技能を、自身の日常的な社会生活に取り入れることができる。
授業の形式	講義・演習・グループワーク
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢 70% ・ レポート 30%</p> <p>講義・グループワークの参加態度 演習 70% ・ レポート 30%</p>
教科書・参考書	講師作成資料
メッセージ	<p>各種の演習やグループワークを通して、仲間との作業やコミュニケーションを体験します。そこでは自分の人格や対人関係をふりかえることとなります。このような体験が自分への気づきとなり、自分の人間関係への学びを深めていくこととなります。</p> <p>私は約30年の「演劇」に関わる業務において、「演劇」の持つ「コミュニケーション力」・「想像力」・「表現力」は、全ての人間に必要な「能力」と考え、俳優の基礎トレーニングに使われる「シアターゲーム」を用いながら、「他者理解」と「自己表現」について、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。</p> <p>「演劇」と同じく、「人間関係作り」に正解はありませんが、その場での関わりの中から「自分ならではの正解」を導くことで、「個」の在り方を探る授業です。</p>

回	授業主題	授 業 内 容
1	「コミュニケーション」とは何か①	他者との関係づくりにおいて、必要な思考と身体表現を、俳優のトレーニングに使われる「シアターゲーム」を用いて考える。
2	「コミュニケーション」とは何か②	「シアターゲーム」を用いながら、「他者理解」について考える。
3	「身体表現」の基礎	「伝える」と「伝わる」の違いについて、人間の行動を観察しながら、思考によって変わる人間の行動について考える。
4	「身体表現」の応用	自己演出について、身なり、身振りによって、他者に与える印象を探り、自分を「演じる」方法を考える。
5	「想像力」の鍛錬	他者の行動と言語から、本音（インナーヴォイス）を読み解くトレーニング。
6	「協働」においての、「他者理解」と「自己表現」	「正解の無い問題」を提示し、グループワークでディスカッションを行いながら、グループなりの「正解」を導き出す。
7	「身体表現」の応用	「戯曲」をテキストとし、グループごとに演じてみる。他者になりきるとはどういうことか、他者の思考と行動を創造する。
8 (0.5)		発表とまとめ
9		講義内容については後日、提示
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16 (0.5)		

教 科 目 名	英 語 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：これまで学んできた英語を医療という現場で、どのように使うかについて具体例を通して学ぶ。日本語との比較を通し、英語的発想や文化の違いについて学ぶ。</p> <p>目標：1. 看護の現場で役立つ英語の表現や、語彙を拡充しその定着を図る 2. 比較的平易な英語で書かれた読み物を数多く読む「多読」を行い英語を読む力、登場人物の気持ちを推測する力をつける 3. 英語の歌や英語によるコミュニケーションを楽しむとともに、異文化を知り、国際感覚を身に着ける</p> <p>内容：1. 医療用語を英語で学ぶ 2. 看護の様々な状況に応じた表現や会話を学ぶ 3. 具体的な状況における会話スキットを通して、発音やイントネーションを学ぶ 4. 医療に関わる映画を観て、表現に関わる実際の用例を学ぶ</p>
授業の形式	講義、ペア・グループによる対話演習
成績評価の方法	出席率 5% 小テスト 30% 講義中の対話・ゲーム等の参加 20% 期末試験 45%
教科書・参考書	(教科書) 新20ヘルスケア・ダイアログス 英語圏の医療ドラマ DVD および英語絵本
メッセージ	誤りを恐れず、臆することなく話すこと

回	授業主題	授 業 内 容
1 2	①Unit 1～2 電話予約・受診手続き ②Unit 3～4	・疑問詞（5W1H）の使い方 ・簡素で適確な英語表現 ・助動詞を用いた敬語および丁寧な表現
3 4	③Unit 5～6 入院の指示・入院手続き ④Unit 7～8	・分詞を用いた慣用表現 ・事務手続きに関わる英語表現 ・異文化理解、守秘義務を伴う情報の取り扱い
5 6	映画鑑賞⑤⑥	・医療業務に関わる映画を鑑賞
7 8	⑦Unit 9～10 薬の指示・検査の指示 ⑧Unit 11 内科	・There 構文 ・助動詞を用いた丁寧な英語表現 ・内科的症状を表す表現
9 10	⑨Unit 12～13 外科・小児科 ⑩Unit 14	・外科的症状を表す表現 ・小児科に見られる症状の表現 ・歯科で使用される医療英語
11 12	⑪Unit 15～16 眼科・耳鼻咽喉科 ⑫Unit 17	・眼科的症状を表す英語表現 ・耳鼻科的症状を表す英語表現 ・産婦人科に関わる英語表現
13 14	⑬Unit 18～19 整形外科・皮膚科 ⑭Unit 20	・骨格、整形外科に関わる英語表現 ・皮膚の症状に関わる英語表現 ・泌尿器に関連する英語表現
15	学科試験	学科試験 対話テストを含む

教 科 目 名	英 語 II	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	犬上 達也	講義学年・学期	3 年次 前・後期

学習目標	<p>目的：様々な医療に関する英文読みとり演習、医療現場を想定した基礎的な医療英会話の演習を通し、外国人患者との会話に対応できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：1. 看護の現場で役立つ英語の表現や、語彙を拡充しその定着をはかる 2. これまで学んだ英語に磨きをかけ、看護現場で外国人患者と必要最小限のコミュニケーションができる英語力を養う。 3. 英語の歌や英語によるコミュニケーションを楽しむとともに、異文化を知り、国際感覚を身につける。</p> <p>内容：1. 日常生活における英会話の基礎 2. 医療場面における英会話</p>
授業の形式	講 義 英会話 発音練習 医療用語 症状に関わる表現 ペアグループによる対話練習
成績評価の方法	筆記試験、出席、受講態度の総合評価
教科書・参考書	随時プリントを用意します。
メッセージ	誤りを恐れず臆することなく話すこと。

回	授業主題	授 業 内 容
1 2	自己紹介	・ 現在時制
3 4	身体のパーツ	・ 現在時制、現在進行形
5 6	医療用品	・ 過去時制
7 8	病院内の案内	・ 場所の聞き方、答え方 ・ 能動態、受動態
9 10	疾病と症状	・ have, feel, be + 補語
11 12	問診票などの書き方	・ 問診の仕方、既往歴の尋ね方
13 14	患者とのおしゃべり	・ 介助に使う表現、患者との対話に用いる動詞・表現
15	期末試験	期末試験

教 科 目 名	代替補完療法	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	3 年次・後期

学習目標	<p>目的</p> <p>人間は誰しも自然治癒力を持ち、健康を回復・維持できる力がある。医療・看護を受ける対象は非日常の空間で不安・緊張感の中で療養生活をしている。治療とともに心身をリラックスでき、自然治癒力や免疫力を高める効果として代替補完療法がある。代替補完療法の視点から看護を展開するとともに、看護職として自分自身をいたわる、ストレスが緩和できる、などのセルフケアマネジメント力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代替補完療法の意義とその活用の概要が理解できる。 2 アロマセラピーの基礎的な知識、留意事項が理解できる。 3 ヨガと呼吸法の意義について理解できる。 4 日常の暮らしへの取り入れ方、看護への活用方法について理解できる。 5 自己のセルフケアマネジメント力を高めることができる。
授業の形式	講義、実技
成績評価の方法	レポート「代替補完療法と看護について」
教科書・参考書	<p>参考書</p> <p>アロマセラピー検定公式テキスト (公益社団法人 日本アロマ環境協会発行)</p>
メッセージ	<p>代替補完療法のうち、アロマセラピーで使われる香りは精油と言いますが、植物から抽出した天然の香りです。この講義を通してお気に入りの香りをぜひ見つけてください。</p> <p>看護の道は、命にかかわり、大変責任があり、そして人の役に立つ重要な仕事だと思います。だからこそ、心身のバランスを整え、毎日を生き生きと過ごしていくためのひとつとしてアロマセラピーを取り入れていただけたら幸いです。</p> <p>ヨガでは古くから代替補完療法を取り入れており、アーユルヴェーダ、中医学などが知られています。それらに楽しく取り組んで、ヨガを通し「自分」を守り続ける「力」の気付きになれば幸いです。</p>

回	授業主題	授 業 内 容
1	代替補完療法とは アロマテラピーとは	<ul style="list-style-type: none"> ・代替補完療法とは ・アロマテラピーとは ・精油とは ・安全のための注意 ・精油の種類とその効果 (ローズマリー、ラベンダー、スイートオレンジ) ・アロマテラピー利用法 (芳香法、吸入法)
2	アロマテラピーの メカニズム	<ul style="list-style-type: none"> ・香りの伝達経路 ・精油の種類とその効果 (ペパーミント、ゼラニウム、ジュニパーベリー、 グレープフルーツ) ・アロマテラピーの利用法 (アロマミストづくり)
3	アロマテラピーと ビューティー&ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ・ホメオスタシスとアロマテラピー ・ストレスとアロマテラピー ・アロマテラピーの看護への応用 ・精油の種類とその効果 (ユーカリ、イランイラン、レモングラス) ・アロマテラピー利用法 (バスボムまたはクリームづくり)
4	アロマテラピーの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・アロマテラピー利用法 (トリートメントオイルづくり) ・アロマテラピートリートメントとは ・ハンドトリートメントの実践
5	ヨガとは	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨガとは ・ヨガ実技
6	ヨガの実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨガの効果と健康 ・ヨガ実技
7	ヨガの実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨガと呼吸法
8		<ul style="list-style-type: none"> ・心身のリラックス法 ・ヨガ実技

教 科 目 名	ボランティア論	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	3 年次 前期

学習目標	<p>目的：地域福祉論の理念とボランティアの実践活動を通して、地域の担い手として他者を敬い思いやりのある人間性を磨き、自ら考えて自主的に行動できる看護師を目指す。</p> <p>目標：1. ボランティア活動の基礎知識を理解する。 2. ボランティア活動の計画作成ができる。 3. ボランティア活動の実践ができる。</p> <p>内容：1. 地域福祉論の理念 2. ボランティア活動の基礎知識 ①ボランティア活動の理論 ②ボランティアをする側とされる側について ③ボランティア活動のマナーと留意事項 3. グループ毎にニーズを把握し、どのような形で実践活動を進めるのか、具体的な活動計画を作成し実践する。 ・市内ゴミ拾い、共同募金、サロン、農業体験、通所施設等でハンドマッサージなど 4. グループ毎にP D C Aサイクル沿って実践活動を展開する。</p>
授業の形式	講義・演習・実践
成績評価の方法	活動計画 (30%)、活動報告書 (40%)、報告会レポート (30%)
教科書・参考書	教科書の指定なし。必要時、資料の配布をする。 参考書：新ボランティア学のすすめ
メッセージ	<p>昨今、日常生活において地域や人との繋がりが希薄化する傾向にある中、他者を敬い思いやりや気遣いを考えた実践活動が少なくなっています。</p> <p>まずは学生の自発性を発揮してボランティア活動に積極的に取り組んでください。</p>

回	授業主題	授業内容
1	講義の概要	本講義を通して、どのような活動をするのか、何を学ぶのかなどを概観する。
2	地域福祉論	社会や地域のニーズを知り、課題解決に向けた社会資源を知る。
3	ボランティア活動の基礎知識	①ボランティア活動の理論 ②する側（支える方）、される側（支えられる方） ③ボランティア活動のマナーと活動のための留意事項
4	ボランティア活動の活計画の作成	P D C Aサイクルによる グループ毎の演習
5	ボランティア実践活動	P D C Aサイクルによる グループ毎の実践
6	ボランティア実践活動の振り返り・まとめ	振り返りを通して次回、より良い活動につなげるための報告書の作成。
7	ボランティア活動の報告会の準備	活動報告会に向けて発表のスキルを学び、身に付ける。
8	報告会	グループ毎にボランティア活動を通して、学んだことの共通認識を図り、自身のボランティア活動を振り返る。